

宮島水族館 消防計画

令和 7年 4月 1日 更新

Ⅳ 目的及びその範囲等

1 目 的

この計画は、消防法第8条第1項に基づき、宮島水族館の防火管理についての必要事項を定め、火災、地震その他の災害の予防と人命の安全、被害の軽減を図ることを目的とする。

2 適用範囲

この計画に定めた事項については、次の者に適用する。

(1) 宮島水族館に勤務し、出入するすべての者

(2) その他

防火管理業務の一部を受託している者

3 防火管理業務の一部委託について〔 該当 非該当 〕

(1) 委託者からの指揮命令

委託を受けて防火管理業務に従事する者は、この計画に定めるところにより、管理権原者、防火管理者、自衛消防隊長等の指示、指揮命令の下に適正に業務を実施しなければならない。

(2) 委託者への報告

受託者は、受託した防火管理業務について、定期的に防火管理者に報告する。

(3) 防火管理業務の委託状況

別表7「防火管理業務の委託状況表」のとおり。

Ⅴ 管理権原者と防火管理者の業務及び権限

1 管理権原者

(1) 管理権原者は、宮島水族館の防火管理業務について、すべての責任を持つ。

- (2) 管理権原者は、管理的または監督的な立場にあり、かつ、防火管理業務を適正に遂行できる権限を持つ者を防火管理者として選任して、防火管理を行わせなければならない。
- (3) 管理権原者は、防火管理者が消防計画を作成し、または変更する場合は、必要な指示を与えなければならない。
- (4) 防火上の建築構造の不備や消防用設備等の不備欠陥が発見された場合は、速やかに改修しなければならない。

2 防火管理者

防火管理者は、この計画の作成及び実行についてのすべての権限を持って、次の業務を行う。

- (1) 消防計画の作成及び変更
- (2) 消火、通報、避難誘導などの訓練の実施
- (3) 火災予防上の自主検査の実施と監督

次の項目を実施し、不備欠陥箇所がある場合は改修促進を図る。

ア 建 物 基礎部、外壁、内装、天井

イ 防 火 設 備 防火戸、防火シャッター

ウ 避 難 設 備 階段、避難口

エ 電 気 設 備 電気室、分電盤、自家発電機

オ 危 険 物 施 設 地下オイルタンク（A 重油 6000L）

カ 火 気 を 使 用 す る 設 備 器 具 温水ヒーター（ボイラー）

キ 消 防 用 設 備 等 自動火災報知設備、誘導灯・非常灯設備、非常放送設備、
消火器、屋内消火栓設備

- (4) 消防用設備等の法定点検・整備及び立会い
- (5) 改修工事など工事中の立会い及び安全対策の樹立
- (6) 火気の使用、取扱いの指導、監督
- (7) 宮島水族館勤務者等に対する防災教育の実施

(8) 火元責任者等に対する指導、監督

(9) 管理権原者への提案や報告

㊦ 消防機関との連絡等

1 消防機関へ報告、連絡する事項

種 別	届 出 等 の 時 期	届 出 者
防火管理者の選任（解 任）届 出	防火管理者を定めたとき、またはこれを解任したとき	管理権原者
消 防 計 画 作 成（変 更）届 出	消防計画を作成したとき、または次の事項を変更したとき <ul style="list-style-type: none">・ 管理権原者または防火管理者の変更・ 自衛消防隊の変更など大幅な変更・ 用途変更、増築、改修、模様替えによる消防用設備等の点検・整備、避難施設の維持管理に関する事項の変更	防火管理者
消防訓練の通報	自衛消防訓練を実施する時	防火管理者
消防用設備等の点検結果報告	3年に1回 （総合点検終了後の消防用設備等の点検結果報告書）	防火管理者 の確認を受けた後に報告をする

2 防火管理業務資料等の整備

防火管理者は、消防機関へ報告または届出した書類及び防火管理業務に必要な書類等を本計画書と一括して、整備し、保管する。

四 火災予防上の点検・検査

1 日常の火災予防

- (1) 防火管理者、火元責任者が行う日常の任務は、別表1のとおりとする。
- (2) 別表1は、各宮島水族館勤務者に配布し、さらに見やすい場所に掲示する。

2 自主的に行う検査・点検

(1) 火災予防上の自主検査

自主検査は、日常的に行う検査と定期的に行う検査に分けて行う。

ア 日常的に行う検査は、別表2の「自主点検チェック票（日常）「火気関係」」に基づき、各担当区域の火元責任者がチェックする。

(ア)「火気関係」のチェックは、毎日終業時に行う。

イ 定期的に行う検査は、別表3の「自主チェック票（定期）」に基づき、防火管理者がチェックする。

実施時期は、5月と11月の年2回とする。

(2) 消防用設備等の自主点検

消防用設備等の法定点検のほかに、自主点検を実施する。

ア 自主点検は、別表4の「消防用設備等自主点検チェック票」に基づき、防火管理者がチェックする。

イ 実施時期は、5月と11月の年2回とする。

3 消防用設備等の法定点検

(1) 消防用設備等の法定点検は、_____に委託して別表5により行う。

(2) 防火管理者は、消防用設備等の点検実施に立会わなければならない。

4 報告等

(1) 自主検査及び法定点検の実施者は、定期的に防火管理者に報告する。ただし、不備、欠陥部分がある場合は、速やかに防火管理者に知らせる。

(2) 防火管理者は、報告された内容で不備・欠陥部分がある場合は、管理権原者に報告を

し、改修しなければならない。

- (3) 防火管理者は、不備・欠陥部分の改修及び予算措置に時間のかかるものについては管理権原者の指示を受け、改修計画を樹立する。

Ⅴ 守らなければならないこと

1 宮島水族館勤務者等が守るべき事項

- (1) 全宮島水族館勤務者は、避難口、廊下、階段などの避難施設と防火戸、防火シャッター、防煙垂壁などの防火施設が有効に機能するように、次の事項を行わなければならない。

ア 廊下、階段、通路には、物品（いす、ロッカー等）を置かない。

イ 階段等出入口に設けられている扉の開閉（常に閉まっている扉及び煙により自動的に閉まる扉）を妨げるように物品が置いてある場合は直ちに除去する。

ウ 防火シャッターの降下位置またはそのすぐ近くに物品が置いてある場合は直ちに除去する。

エ 上記において、物品等が容易に除去できない場合は、直ちに防火管理者に報告する。

(2) 火気管理

ア 終業時には必ず灰皿の整理及び火気設備器具の安全を確認する。

イ 火気設備器具は指定された場所で使用するとともに、器具等の本来の目的以外に使用しない。

ウ 燃焼器具等を使用する場合は、周囲を整理整頓するとともに、可燃物に接近して使用しない。

(3) 放火防止対策

ア 死角となる廊下、階段、トイレ等に可燃物を置かない。

イ 物置、空室、倉庫等には施錠を行う。

ウ 建物内外の整理整頓を行う。

2 防火管理者等が守るべき事項

(1) 工事中の安全対策の樹立

ア 防火管理者は、工事を行うときは、工事中の安全対策を樹立する。

また、次に掲げる事項を行うときは、「工事中の消防計画」を消防機関に届け出なければならない。

(ア) 増築等で建築基準法第7条の3に基づき、特定行政庁に仮使用申請したとき。

(イ) 消防用設備等の増設等の工事に伴い、当該設備の機能を停止させるときまたは機能に著しく影響を及ぼすとき。

イ 工事人等の遵守事項

防火管理者は、工事人に対し、次の事項を周知し遵守させる。

(ア) 溶接・溶断など火気を使用して工事を行う場合は、消火器等を準備して消火できる体制を確保すること。

(イ) 工事を行う者は、防火管理者が指定した場所以外では、喫煙、火気の使用等を行わないこと。

(ウ) 工事場所ごとに火気の責任者を指定し、工事の状況について、定期的に防火管理者に報告させること。

(エ) 危険物を持ち込む場合は、その都度、防火管理者の承認を受けること。

(オ) 放火防止のために、資機材の整理整頓をすること。

2 その他

避難経路図を作成し、1階の各出入口付近、事務所などに掲示する。

⑥ 自衛消防組織等

1 組織の編成

自衛消防組織の編成（警戒宣言発令時の組織を含む）は、別表6のとおりとし、この別表は事務所等の見やすいところに掲示する。

2 自衛消防活動

消火・通報・避難誘導の担当者は、次に示す基準により、行動する。

(1) 通報・連絡

ア 火災が発生したときには、各通報連絡担当または火災を発見した者は、119番通報するとともに、周囲の者に連絡する。

イ 事務所の通報連絡担当は、119番通報をするとともに、放送設備により出火場所や消火・避難誘導などの指示をする。

ウ ぼやで消えた場合も、消防機関へ通報する。

エ 放送文を作成し、放送設備の付近に常備する。

(2) 初期消火

ア 消火担当は、出火場所に急行し積極的に初期消火活動を行う。

イ 消火担当は、近くに設置してある消火器、屋内消火栓設備等を用いて、消火する。

(3) 避難誘導

ア 避難誘導担当は、避難経路図に基づいて避難誘導をする。

イ 携帯用拡声器等を使用して落ち着いて行動するよう誘導する。

ウ 避難方向がわかりにくいときは、曲がり角などに誘導員が立って、誘導する。

エ 避難誘導担当は、負傷者及び逃げ遅れの者の確認を行い、自衛消防隊長に報告する。

(4) 安全防護

逃げ遅れた者がいないことを確認した後、防火戸や防火シャッターを閉鎖する。

(5) 応急救護

ア 応急救護担当は、負傷者の応急手当を行い、救急隊と連絡を密にして、負傷者を速やかに運ぶことができるようにする。

イ 応急救護担当は、負傷者の氏名、負傷程度など必要事項を記録する。

3 自衛消防隊の活動範囲

(1) 自衛消防隊の活動範囲は、宮島水族館の管理範囲とする。

- (2) 近接する建物等からの火災で延焼を阻止する必要がある場合は、設置されている消防用設備等を有効に活用できる範囲内とし、自衛消防隊長の判断に基づき活動する。

Ⅶ 休日、夜間の防火管理体制

1 休日・夜間に在館者がいる場合の措置

休日・夜間においては、在館者がいる場合、在館者全員で、次の初動措置を行う。

(1) 通報連絡

火災が発生したときは、ただちに119番通報するとともに、他の宮島水族館勤務者に火災の発生を知らせ、さらに緊急連絡一覧表により関係者に速やかに連絡すること。

(2) 初期消火

全員が協力して、消火器、屋内消火栓設備等を有効に活用し、適切な初期消火を行うとともに、防火戸などの閉鎖を行う。

(3) 避難誘導

工事、点検等のため在館者がある場合は、非常放送、ハンドマイク等を使用して火災を知らせ、避難方向を指示すること。

(4) 消防隊への情報提供等

消防隊に対し、火災発生の状況、延焼状況等の情報及び資料等を速やかに提供するとともに、出火場所への誘導を行う。

Ⅷ 地震対策

1 日常の地震対策

(1) 地震対策を実施する責任者は、防火管理者とする。

(2) 震災時の災害を予防するため、次の事項を実施する。

ア ロッカー等の転倒防止措置を行う。

イ 窓ガラス等の落下、飛散防止措置を行う。

ウ 火気設備器具等からの出火防止措置を行う。

エ 危険物等の流出、漏えい防止措置を行う。

(3) 震災時の備蓄品を確保し、有事に備えるとともに、定期的に点検整備を実施する。

備蓄品目	備蓄場所
飲料水	事務所
非常用食料（缶詰、乾パン類）	
医薬品	
懐中電灯	
携帯ラジオ	
携帯用拡声器	

2 地震後の安全措置

(1) 出火防止

ア 火気設備器具の直近にいる勤務者は、元栓、器具栓の閉止または電源遮断を行い、各火元責任者はその状況を確認する。

イ その他

ボイラー担当者は、ボイラーの使用停止及び燃料バルブ等の操作と確認を行う。

地震発生直後は、身の安全を守ることを第一とする。

(2) 地震動終了後、防火管理者等は、二次災害の発生防止をするため、建物、火気設備器具及び危険物施設等について点検・検査を実施し、異常が認められた場合は応急措置を行う。

(3) 各設備器具は、安全を確認した後、使用する。

3 震災時の活動

震災時の活動は、前記「自衛消防活動」によるほか、次の事項について行うものとする。

(1) 情報収集

通報連絡担当者は、次のことを行う。

ア テレビ、ラジオなどにより、情報の収集を行う。

イ 混乱防止を図るため、必要な情報は在館者に知らせる。

(2) 避難誘導等

ア 各避難誘導担当は、在館者等の混乱防止に努め、次のことを行う。

(ア) 在館者を落ち着かせ、自衛消防隊長から避難命令があるまで照明器具などの転倒落下に注意しながら、柱の周りや、壁際など安全な場所で待機させる。

(イ) 在館者の第一次避難場所は、宮島水族館隣接大元公園とする。

(ウ) 避難は、防災関係者の避難命令または自衛消防隊長の命令により行う。

(エ) 避難誘導は、先頭、最後尾に宮島水族館勤務者を配置する。

イ 各安全防護担当者、避難通路に落下、倒壊した物品などで避難上支障となるものの除去を行う。

4 警戒宣言発令時の対応措置

警戒宣言が発令されたとき、自衛消防隊は別表6に定める任務を行う。

(1) 警戒宣言発令時における営業方針

原則として、営業は中止とする。

(2) 関係者・宮島水族館勤務者等に対する警戒宣言発令情報の伝達方法

ア 在館者等に対する情報の伝達に先立ち、まず全宮島水族館勤務者へは携帯型無線機等を利用して伝達する。

イ 在館者等に対する情報の伝達時期は、各階の避難誘導担当の配備完了後とし、放送文により放送し伝達する。

(3) 地震による被害の防止措置

ア 地震により、火災発生のおそれのある火気設備器具は、原則として使用中止し、やむを得ず使用する場合は、最小限とする。

イ 被害防止措置の内容

(ア) 窓ガラス等の破損、散乱防止措置

(イ) 照明器具、ロッカー、書棚、OA機器、物品などの転倒・落下防止措置

5 南海トラフ地震への対策

南海トラフ地震対策計画は、別添1のとおりとする。

㉒ 防災教育

1 防災教育の実施時期、実施者、実施対象者、実施回数は、次表のとおりとする。

対 象 者	実 施 時 期	実 施 回 数	実 施 者
新規採用者	採 用 時	採用時1回	防火管理者
常時勤務者	__5月__12月	年2回	
	朝 礼 時	必要の都度	
アルバイト	採 用 時 等	採用時1回その他必要の都度	
	就 業 時	必要の都度	

2 防災教育の内容及び実施方法

(1) 防災教育の内容は、実施者の任務分担を定め、おおむね次の項目について教育する。

ア 消防計画について

(ア) 宮島水族館勤務者が守るべき事項

(イ) 火災発生時の対応について

(ウ) 地震時の対応について

(2) 防災教育の方法について

ア 新規採用者は、採用時の研修期間中に実施する。

イ その他の勤務者は、必要に応じて実施する。

Ⅳ 訓 練

1 訓練の実施時期等

(1) 訓練の種別及び実施時期等 ●実施時期の検討

訓練種別	実 施 時 期	備 考
消火訓練	__5月 __11月	
通報訓練	__5月 __11月	
避難訓練	__5月 __11月	
総合訓練	__5月	消防署立会い

(2) 訓練の参加者

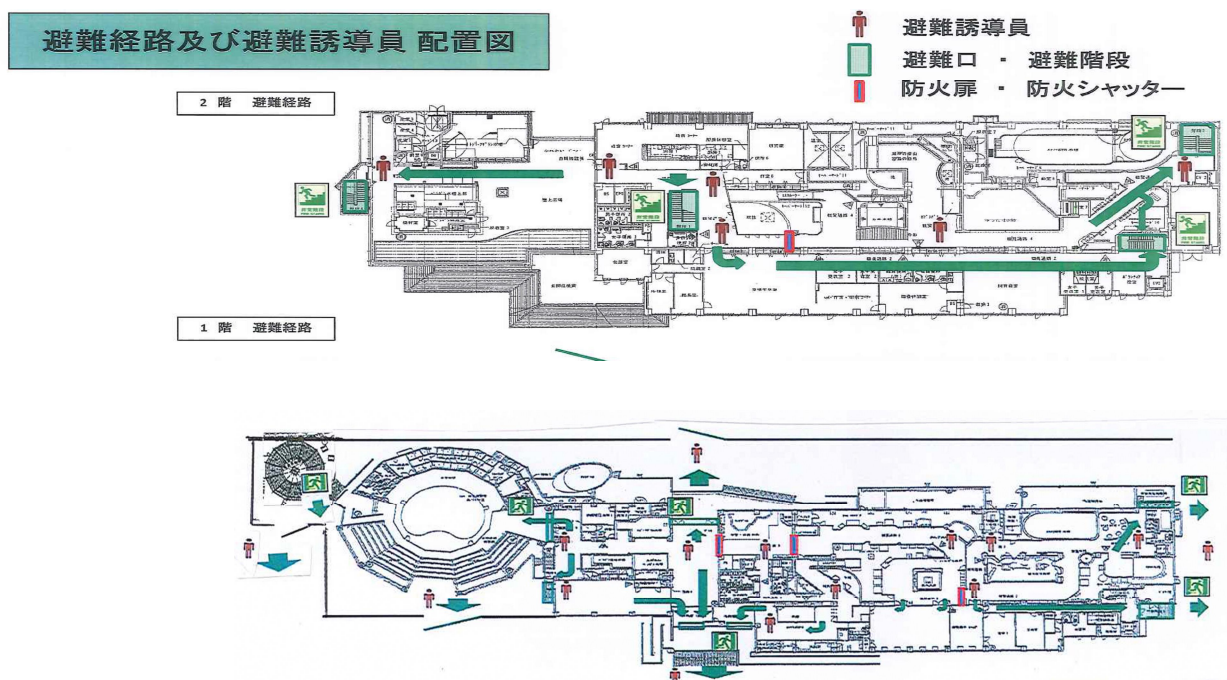
ア 自衛消防隊員

イ 宮島水族館勤務者の中から、できるだけ多くの者

2 訓練の実施結果

防火管理者は、訓練内容をチェックし、その結果を講評するとともに、指導事項については、次回の訓練に反映させる。

Ⅳ 避難経路図（平面図）



別表1

日常の火災予防の担当者と日常の注意事項

防火管理者				宮島水族館 経営課 課長 北岡 裕二			
防 火 担 当 責 任 者		火 元 責 任 者		防 火 担 当 責 任 者		火 元 責 任 者	
担 当 区 域		氏 名		担 当 区 域		氏 名	
地下 1 階		● 廿日市市 ()		● ろ過機械室		●	
1 階		● 廿日市市 ()		● 出 札 室		●	
				● 乳児室・授乳室		●	
				● ｵﾌｾｰﾙﾙﾑ・企画展示ﾙﾑ		●	
				● 救護室・警備員室		●	
				● ボイラー室		●	
				● ろ過槽置場		●	
				● 売店		●	
2 階		● 廿日市市 ()		● 管理事務室・会議室		●	
				● 飼育員室		●	
				● ボランティア控室		●	
				● 電気室		●	
				● 研究室		●	
				● 軽食コーナー		●	
はつこい庵		● 廿日市市 ()		● バックヤード全域		●	
				● 屋外機械置場		●	
担 当 者 の 任 務							
防 火 管 理 者		・当館の防火管理業務の総括責任者 ・防火担当責任者と火元責任者に対し指揮監督を行う。					
防 火 担 当 責 任 者		・担当区域の火災予防について責任をもつとともに、火元責任者に対し指導監督を行う。 ・防火管理者の補佐を行う。					
火 元 責 任 者		・担当区域の火災予防について、「自主チェック票」などに基づき、チェックし防火管理者に報告する。					
宮 島 水 族 館 勤 務 者 等 の 注 意 事 項							
営 業 中	1 消火器、屋内消火栓が設置してある場所や館内の階段、通路、出入口などの周囲には、物品を置かないこと。						
	2 防火戸の付近には、閉鎖の障害となる物品を置かないこと。						
	3 火気設備器具の周辺は、よく整理清掃して、燃えるものを接して置かないこと。						
	4 休憩室、事務室などから最後に出る人は、必ず火の始末をすること。						
	5 お客の入替えごとに吸殻、ゴミくずの処理を行うこと。						
	6 勤務者等の喫煙は、指定された場所で行うこと。						
	7 死角となる廊下、階段、トイレなどに燃えるものを置かないこと。						
	8 シンナーや塗料など火災予防上危険な物品は持ち込ませないこと。						
	9 危険物品を使用するときは、防火管理者の承認を得ること。						
	10 その他						
閉 館 後	(1) 厨房は、常に整理整頓し、グリスフィルターは定期的に清掃すること。						
	(2) 揚げ物等の調理を行っている場合は、調理担当者は絶対に持場を離れないこと。						
	(3) 異常事態が発生したときは、必ず防火管理者に報告すること。						
	1 通路のゴミ入れを確認するほか、吸殻は不燃製の蓋付き水入れ容器に入れるなどして処分すること。						
閉 館 後	2 建物内外の整理整頓を行い、ゴミやダンボール箱など燃えやすいものは、決められた時間以外は外に出さないこと。						
	3 電気、など火気設備器具のスイッチを切り、各室の安全を確かめた後に施錠すること。						
	4 その他 異常事態が発生したときは、防火管理者に報告すること。						

別表2

自主点検チェック票（日常）「火気関係」

____月

実施責任者		担 当 区 域						
日	曜日	実 施 項 目						
		<div style="text-align: center;">  </div>	電気器具 の配線の 老化・損傷	火気設備 器具の設 置・使用状 況	吸殻の処 理（場所）	倉庫等の 施錠確認	終業時の 火気の確 認	そ の 他
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30								
31								

防火管理者

印

備 考 不備・欠陥がある場合は、直ちに防火管理者に報告する。

凡 例 ○・・・良 ×・・・不備・欠陥 ⊗・・・即時改修

別表3

自主チェック票（定期）

実施項目及び確認箇所		検査結果
建築物構造	基礎部 上部の構造体に影響を及ぼすような沈下・傾き・ひび割れ・欠損等がないか	
	柱・はり・壁・床 コンクリートに欠陥・ひび割れ・脱落・風化はないか	
	天井 仕上材に、はく落・落下のおそれのあるたるみ・ひび割れはないか	
	窓枠・サッシ・ガラス 窓枠・サッシ等に、ガラス等の落下、または枠自体のはずれるおそれのある腐食、ゆるみ、著しい変形等はないか	
	外壁・ひさし はく落・落下のおそれのあるひび割れ・浮き上がり等が生じていないか	
	手すり 支柱が破損・腐食していないか。また、取付部にゆるみ・浮きがないか	
	防火施設	
防火施設	外壁の構造及び開口部等 ・ 外壁の耐火構造等に損傷はないか	
	・ 外壁の近く及び防火戸の内外に防火上支障となる可燃物の堆積及び避難の障害となる物品等を置いていないか	
	・ 防火戸は円滑に開閉できるか	
	防火区画 ・ 防火区画を構成する壁、天井に破損はないか	
	・ 防火シャッターの降下スイッチを作動させ、防火シャッターが最後まで降下するか	
	・ 防火戸・防火シャッターが閉鎖した状態で、隙間が生じていないか	
避難施設	廊下・通路 ・ 避難上支障となる設備・機器等の障害物を設置していないか	
	階段 ・ 手すりの取付部のゆるみと手すり部分の損傷はないか	
	・ 階段室に設備・機器等の障害物を設置していないか	
	・ 非常用照明がバッテリーで点灯するか	
	避難階の避難口（出入口） ・ 扉の開放方向は避難上支障ないか	
	・ 避難扉の錠は内部から容易に開けられるか	
火気設備器具	・ 避難階段等に通ずる出入口・屋外への出入口付近に障害物はないか	
	・ 火気周囲は整理整頓されているか	
	・	
	・	
	・	
	・	
	・	
	・	

電 気 設 備	変電設備			
	・ 電気主任技術者等の資格を有する者が検査を行っているか			
	・ 変電設備の周囲に可燃物を置いていないか			
	・ 変電設備に異音、過熱はないか			
危 険 物 施 設	電気器具			
	・ 許容電流の範囲内で電気器具を適正に使用しているか			
	標識は掲げられているか			
	掲示板（類別・数量等）には、正しく記載されているか			
	換気設備は適正に機能しているか			
	整理清掃状況は適正か			
危険物の漏れ、あふれ、飛散はないか				
通気管のメッシュに亀裂等はないか				
検査実施者氏名			検査実施日	年 月 日

凡 例 ○・・・良 ×・・・不備・欠陥 ⊗・・・即時改修

別表4

消防用設備等自主点検チェック票

設 備 名	確 認 箇 所	点検結果
消 火 器 (年 月 日実施)	設置場所に置いてあるか	
	消火薬剤の漏れ、変形、損傷、腐食等はないか	
	安全栓が外れていないか。安全栓の封が脱落していないか	
	ホースに変形、損傷、老化等がなく、内部に詰まりがないか	
	圧力計が指示範囲内にあるか	
屋 内 消 火 栓 設 備 (年 月 日実施)	使用上の障害となる物品はないか	
	消火栓ボックスの扉は確実に開閉できるか	
	ホース、ノズルが接続され、変形、損傷はないか	
	表示灯は点灯しているか	
ハロゲン化物消火設備 (年 月 日実施)	起動装置またはその直近に防護区画の名称、取扱方法、保安上の注意事項等が表示されているか(手動式起動装置)	なし
	手動起動装置の直近の見やすい箇所に「ハロゲン化物消火設備」の表示が設けてあるか	
	スピーカー及びヘッドに変形、損傷、つぶれなどはないか	
	貯蔵容器の設置場所に表示が設けてあるか	
ス プ リ ン ク ラ ー 設 備 (年 月 日実施)	散水の障害はないか	なし
	間仕切り、棚等の新設による未警戒部分はないか	
	送水口の変形及び操作障害はないか	
	スプリンクラーヘッドのヘッドに漏れ、変形はないか	
	制御弁は閉鎖されていないか	
屋 外 消 火 栓 設 備 (年 月 日実施)	使用上の障害となる物品はないか	なし
	消火栓扉の表面には、「消火栓」または「ホース格納箱」と表示されているか	
	ホース、ノズルに変形、損傷はないか	
自 動 火 災 報 知 設 備 (年 月 日実施)	表示灯は点灯しているか	
	受信機のスイッチは、ベル停止になっていないか	
	用途変更、間仕切り変更による未警戒部分がないか	
	感知器の破損、変形、脱落はないか	
ガ ス 漏 れ 火 災 警 報 器 (年 月 日実施)	表示灯は点灯しているか	なし
	受信機のスイッチは、ベル停止になっていないか	
	用途変更、間仕切り変更、ガス燃焼機器の設置場所の変更等による未警戒部分はないか	
	ガス漏れ検知器に変形、損傷、腐食はないか	
漏 電 火 災 警 報 器 (年 月 日実施)	電源表示灯は点灯しているか	なし
	受信機の外形に変形、損傷、腐食等がなく、油煙、ほこり、さび等で固着していないか	
非 常 ベ ル (年 月 日実施)	表示灯は点灯しているか	なし
	操作上障害となるものがないか	
	押しボタンの保護版に破損、変形、脱落等がないか	
放 送 設 備 (年 月 日実施)	電源監視用の電流電圧計の指示が適正か、電源監視用の表示灯が正常に点灯しているか	
	試験的に放送設備により放送ができるか確認する	

<div> <div>避難器具</div> <div>（年 月 日実施）</div> </div>	避難に際し容易に接近できるか	なし
	格納場所の付近に物品等が置かれ、避難器具の所在がわかりにくくなっているか	
	降下する際に障害となるものがないか	
	標識に変形、脱落、汚損はないか	
<div> <div>誘導灯</div> <div>（年 月 日実施）</div> </div>	改装等により、設置位置が不適正になっていないか	
	誘導灯の周囲には、間仕切り、ロッカー等がある、見えにくくなっているか	
	変形、損傷、脱落、汚損等なく、かつ、適正な取付け状態であるか	
	不点灯、ちらつき等がないか	
<div> <div>連結送水管</div> <div>（年 月 日実施）</div> </div>	送水口の周囲は、消防自動車の接近に支障ないか、または送水活動に障害となる物がないか	
	送水口に変形、損傷、著しい腐食がないか	
	放水口の周囲には、ホースの接続や延長等の使用上の障害となる物がないか	
	放水口を格納する箱に変形、損傷、腐食等がなく、扉の開閉に異常がないか	
	表示灯は点灯しているか	
備考		
検査実施者氏名	印	

備考 不備・欠陥がある場合は、直ちに管理権原者に報告をし、改修に努める。

凡 例 ○ 良 × 不 備 ・ 欠 陥 ⊗ 即 時 改 修

別表5

消防用設備等点検計画表

区 分 種 類	点 検 実 施 月	
	機 器 点 検	総 合 点 検
消 火 器	1 月 7 月	7 月
屋 内 消 火 栓 設 備	1 月 7 月	7 月
スプリンクラー設備	なし	月
屋 外 消 火 栓 設 備	なし	月
ハロゲン化物消火設備	なし	月
泡 消 火 設 備	なし	月
自動火災報知設備	1 月 7 月	7 月
火 災 通 報 装 置	1 月 7 月	7 月
ガス漏れ火災警報設備	なし	月
漏 電 火 災 警 報 器	なし	月
非 常 警 報 設 備	なし	月
避 難 器 具	なし	月
誘 導 灯	1 月 7 月	7 月
自 家 発 電 設 備	1 月 7 月	7 月
連結送水管設備	なし	月
点 検 業 者		
住 所		
電 話 番 号		

別表6

自衛消防組織の編成

自衛消防隊長 <u>経営課課長</u> (自衛消防隊に対する指揮、命令、監督等を行う) 自衛消防隊副隊長 <u>経営課課長補佐</u> (隊長を補佐し、隊長不在のときは、その任務を代行する) 地区隊長 担当区域の初動措置の指揮体制を図るとともに自衛消防隊長への報告連絡を行う			
自 衛 消 防 隊 の 編 成			
1階 地区隊長 通報連絡担当 (はつこい庵含む) (経営課飼育係) 初期消火担当 避難誘導担当 安全防護担当 応急救護担当		2階 地区隊長 通報連絡担当 (経営課経営管理係) 初期消火担当 避難誘導担当 安全防護担当 応急救護担当	
区 分	平 常 時 の 任 務	警戒宣言発令時の組織編成	警戒宣言発令時の任務
通報連絡担当	消防機関への通報及び通報の確認 館内への連絡及び指示命令の伝達 関係者への連絡	通報連絡担当は、情報収集担当として編成する	テレビ、ラジオ等により情報を収集する
初期消火担当	出火場所へ急行する 消火器等による初期消火	初期消火担当は、点検担当として編成する	担当区域の転倒、落下防止措置を講ずる
避難誘導担当	出火時における避難者の誘導 負傷者及び逃げ遅れ者の確認 非常口の開放並びに開放確認と物品の除去	避難誘導担当は、平常時と同様の編成とする	本部の指揮により、避難誘導を行う
安全防護担当	水損防止、電気等の安全措置及び防火戸、防火シャッターの操作	安全防護担当は、点検担当として編成する	上記の消火担当の任務に同じ
応急救護担当	応急救護所の設置 負傷者に対する応急処置 救急隊との連携、情報の提供	応急救護担当は、応急措置担当として編成する	危険箇所の補強、整備を行う

別表7

防火管理業務の委託状況表

防 火 対 象 物 名			宮島水族館	
管 理 権 原 者 名			廿日市市	
防 火 管 理 者 名			宮島水族館 経営課長	
受 託 者 氏 名 及 び 住 所 等			氏名（名 称）（法人にあつては名称及び主たる事務所の所在地） _____ 住所（所在地） _____	
受 の 託 範 者 団 の 及 行 び う 方 防 法 火 管 理 業 務	常 駐	範 囲	<input type="checkbox"/> 火気使用箇所の点検監視業務 <input checked="" type="checkbox"/> 避難又は防火上必要な構造及び設備の維持管理 <input checked="" type="checkbox"/> 火災が発生した場合の初動措置 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <input checked="" type="checkbox"/> 初期消火 <input checked="" type="checkbox"/> 通報連絡 <input checked="" type="checkbox"/> 避難誘導 </div> <input type="checkbox"/> その他（ ）	
			<input type="checkbox"/> 周囲の可燃物の管理 <input type="checkbox"/> その他（ ）	
	方 法	方 法	常 駐 場 所	機械警備
			常 駐 人 員	
			委託する防火対象物の区域	宮島水族館
委託する時間帯	18時から8時まで			

南海トラフ地震対策

1 目的

この計画は、南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法（平成14年法律第92号。以下「法」という。）に基づき、津波からの円滑な避難の確保に関する事項その他地震防災対策上必要な事項について、人命の安全及び被害の軽減を図ることを目的とする。

2 組織

南海トラフ地震が発生した場合における防災に関する業務を行う者の組織（以下「地震防災隊」という。）は、次のとおりとし、その編成および活動内容は別記のとおりとする。

（1）地震防災隊に隊長及び副隊長を置く。

（2）隊長のもとに情報収集連絡班及び避難誘導班を設置し、各班に班長を置く。

3 隊長等の権限及び業務

（1）隊長は、地震防災隊の活動に関する一切の権限をもち、南海トラフ地震に伴う津波警報等が発表された場合等南海トラフ地震が発生したことを覚知した場合は、次の措置を講ずるものとする。

ア 情報収集連絡班に地震及び津波に関する情報の収集にあたらせること。

イ 南海トラフ地震が発生したことを各班長に伝達するとともに、当該施設内にその旨及び必要な措置について周知すること。

ウ 避難誘導班に在館者等の避難誘導にあたらせること。

エ 当該施設に勤務し、または出入りするすべての者を一旦正面出入口付近に集合させ避難すること。

オ 前号に掲げるほか、津波からの避難に支障がない範囲で、地震による被害の発生防止又は軽減を図るために必要な措置を行わせること。

(2) 副隊長は、隊長を補佐し、隊長に事故あるとき又は不在のときは、その職務を代理する。

4 宮島水族館勤務者の責務

南海トラフ地震に伴う津波警報等が発表されたとき又は地震が発生したことを覚知した宮島水族館勤務者は、直ちに隊長及び情報収集連絡班長にその旨を報告するものとする。

5 情報収集連絡班の業務

情報連絡班は、次の活動を行うものとする。

(1) 隊長の指示に基づき、ただちに地震及び津波に関する情報の収集につとめ、随時隊長に報告すること。

(2) 隊長の指示に基づき、地震及び津波に関する情報及び隊長の命令の内容等防災上必要な情報を、次項に定める手段を用い、在館者、その他の勤務者に伝えること。

(3) あらかじめいくつかの状況を想定し、それぞれの場合に応じた在館者等に対する情報伝達のための例文、手段は次のとおりとする。

● 放送文

ただ今、南海トラフ地震が発生しました。これにより、津波警報が発令され、広島県への到達時刻はおよそ〇〇時〇〇分頃です。館内の皆さまは、ただちに正面出入口付近に集合し、スタッフの指示に従って、落ち着いて大元公園へ避難してください。(繰り返し実施する。)

● 手 段

館内放送、携帯型無線機等または宮島水族館勤務者が館内を確認する。

6 避難誘導班の業務

避難誘導班は、次の活動を行うものとする。

- (1) 津波警報が発令された場合における当該施設の避難場所は、広島県都市公園・特別管理地域（大元公園）とする。
- (2) 地震の発生又は隊長の指示に基づき、速やかに建物内の避難路の確保及び安全の確認、別添避難経路図に示した避難場所に誘導する。なお、当該避難場所までの経路を示した地図の掲出等必要な措置を講じ、完了後はその旨を直ちに隊長へ報告すること。
- (3) 隊長から避難誘導開始の指示を受けたときは、在館者等を避難誘導すること。
- (4) 避難誘導の際には、拡声器等を用いて避難の方法や方向を指示し、混乱の発生防止に努めること。
- (5) 在館者等への避難誘導が完了したときは、その旨を確認し、直ちに隊長に報告すること。

7 その他不測の事態

- (1) 隊長は、南海トラフ地震が発生した後の状況等から、この計画どおり活動することが困難又は適当でないと判断したときは、これによらないことができる。この場合、隊長は直ちに隊員に必要な指示を与えるものとする。
- (2) 各班の班長は、班がこの計画どおりに活動することが困難又は適当でないと判断したときは、ただちに隊長にその状況を報告し、必要な指示を受けるものとする。

8 訓練

防火管理者が行う防災訓練は次による。なお、訓練は年1回以上行うものとする。又、地方公共団体及び関係機関が行う訓練には積極的に参加するものとする。

- (1) 情報収集・伝達に関する訓練

(2) 津波からの避難に関する訓練

(3) その他前各号を統合した総合防災訓練

種別	実施日
部分訓練	5月 11月
総合訓練	11月

9 教育

防火管理者が宮島水族館勤務者等に対して行う教育は次による。

- (1) 南海トラフ地震に伴い発生すると予想される地震動及び津波に関する知識
- (2) 地震及び津波に関する一般的な知識
- (3) 地震が発生した場合に具体的にとるべき行動に関する知識
- (4) 宮島水族館勤務者等が果たすべき役割
- (5) 地震防災対策として現在講じられている対策に関する知識
- (6) 今後地震対策として取り組む必要のある課題

10 広報

防火管理者が、在館者等に対して事前に行う広報は次による。

- (1) 地震が発生した場合に出火防止、在館者同士が協力して行う救助活動、自動車運行の自粛等、防災上とるべき行動に関する知識
- (2) 正確な情報入手の方法
- (3) 防災関係機関が講ずる災害応急対策等の内容
- (4) 各地域における避難対象地区、急傾斜地崩壊危険箇所等に関する知識
- (5) 各地域における避難場所及び避難路に関する知識

地震防災隊編成表

役 割		氏 名	
地震防災隊長		経営課課長	
地震防災副隊長		経営課課長補佐	
情報収集連絡班	班長	廿日市市職員	
	班員		
避難誘導班	班長	廿日市市職員	
	班員		

地震防災隊活動要領

担当区分	任務内容
地震防災隊長	・ 指揮、命令
	・ 避難開始時期、避難場所の決定
地震防災副隊長	・ 隊長の補佐、隊長不在時の隊長代行
情報収集連絡班	・ 館内放送等により、パニックの発生を防止する。
	・ 携帯ラジオにより、防災機関からの情報を収集する。
	・ 周辺で火災が起きていないか、燃え移ってこないかなどを確認し、隊長に報告する。
避難誘導班	・ メガホンや携帯拡声器を使い、落ち着いて行動するように誘導する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレなど滞者がいないか確認する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ドアを開く。
	<ul style="list-style-type: none"> ・避難経路に倒れた物や落下物を取り除く。
	<ul style="list-style-type: none"> ・火災が発生していない場合は、隊長の避難指示があるまで、柱の周りや、壁際など安全な場所で待つ。
	<ul style="list-style-type: none"> ・避難行動要支援者の避難支援
	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人、出張者および旅行者について配慮する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・避難誘導班自身の安全な避難の確保について定めておく。